

漢法苞徳塾資料	No. 086
区分	巻頭言
タイトル	荒廃した医療を憂慮する
著者	八木素萌
作成日	1992.08

☆ヒヒの肝臓を移植した事件に見られる医療思想の荒廃

最初は手術の成功により患者の肝機能は良好に働いていると報じられ、次いで、ヒヒの肝臓を用いたのは最適の選択であったと言う医療側の発言が報道され、やがて患者は全身的な臓器不全を起こして死亡した、然し、他種の臓器を移植したケースでは最長の生存であった、と報道された。

術後に 10 数日しか生き無かったが、それは患者の延命であり、苦痛の解除または緩解となったか？経済的な負担は？他種の臓器を移植して本当に患者を十分に延命させ、十分に病苦を（心身も経済も）緩和させられると、医師たちは確信して行なった手術であったのか？

現代医学の常識から言えば医師たちのチャレンジは「病苦の緩解と延命」にあったのだとは断じて言えない。むしろ「強力な新しい免疫抑制剤の効果を試みる為の格好なモデルが得られた」為のものであると言うべきである。従って、このような手術は医療の荒廃以外の何ものでも無い。故に、これはまた、報道の姿勢にも大きな荒廃が見られたものである。

☆血液型の適合問題と輸血の為の血液型検査との間に見られる乖離も問われなければならない。こんな問題を考えている最中の 8 月 24 日の朝のニュースによれば、過去 5 年間に輸血事故による死者は約 170 名に及ぶことが明らかになったが、これは輸血血中の白血球によって、患者の身体が攻撃されて死亡したものであるから、今後は輸血血をあらかじめ放射線で処理して、かかる死亡事故を防ぐと言うのである。此の説明は適切で正しいものか？甚だ疑問である。

血液型の適否は、現在判明している全ての要素で調査された上で輸血されているだろうか？A B O 式・r h 式を含めて血液型には他に数種類があって、現在分かっている全部の様式を通じて適合する血液型は、500 億分の 1 と 800 億分の 1 と計算されているのに、輸血時の適合調査は、全ての血液型に渡っていない。この問題と、今回の厚生省の対策（放射線を照射して白血球を殺して処理した血液を用いる）との関係を明確にすべきものであろう。何かうさん臭い感じが否めないのである。